

ドキュメント いっぽんの絆

1

12月22日夜、四畳半一間のこたつで、嘉一さん(55)は東京スカイツリーのイラストをあしらった年賀はがきに向かっていた。20分あまり考え、ゆっくりとペンを動かした。

「19年間の償いを少しでもしたいと思います。一日でも早く会えるよう頑張ります」。妻と一人娘を残して蒸発し、死んだはずの嘉一さんが初めて書いた年賀状。新しい年への願いを込めた。

国が発行する官報の「失踪宣告取消」欄には、失踪宣告を受けて死亡したとみなされながらも、その後生存が確認された人の氏名が並ぶ。嘉一さんの名はこの欄にあった。

11月14日。私は失踪者の実態を取材しようと、神奈川県大和市のワンルームマンションを訪ねた。郵便受けは粘着テープで塞がれ、表札もない。「客が来たのは初めて」。突然の訪問に驚きながらも嘉一さんは応じた。取材に答えるうちに封印してきた思いがだみ上げてきた。「謝らなければ」と思い続けてきたけれど、まだ勇気がない。この気持ちを家族に伝えてほしい

嘉一さんは高校卒業後、2年間の信用組合勤務を経て、群馬県藤岡市で父が営む運送会社に入った。83年に28歳で結婚。翌年、会社は約2億円の負債を抱えて倒産し、その3カ月後に娘が生まれた。

再起を期した嘉一さんは建築会社に入った。時代はバブル景気に沸いていたが、負債整理を抱えながらの慣れない仕事。逃げるようにパチンコに走り、再び膨れ上がった借金。200万円になった。

単身赴任手当を返済に充てようと、東京の本社に転勤。だが、逆にパチンコで借金は膨れ、ヤミ金からの取り立ての電話が職場にもかかるようになった。「もう妻に顔向けできない」。思い悩んだ末、91年7月の早朝、社員寮を抜け出した。36歳だった。

運転免許証や保険証が入ったバッグは駅のコインロッカーに捨てた。すべてのつながりを絶ち飛び込んだのは、運送会社で夜中に宅配便を仕分ける仕事だった。19年間の失踪生活は日本経済の低迷期と重なる。職場には事情を抱えた人たちが流れ込んで消えた。誰も身の上を語らず、聞こうともしない。嘉一さんも「田村」の偽名で通した。

会いたくて会えなくて

妻子への思いが募ることもあった。再婚しただろうか。「娘はどんな子に育っただろう」。ベルトコンベヤーの小包に故郷の地名を見つけると胸が締めつけられた。

保険証もなく、歯槽膿漏で歯が抜け続けても痛みを耐えられなかった。今は下の奥歯4本が残るだけ。食は細り、体重は80kgから60kgに減った。部屋で独り、静かに酒を飲むのがささやかな楽しみ。体が続く限り働いて、ひっそり死のうと決めていた。

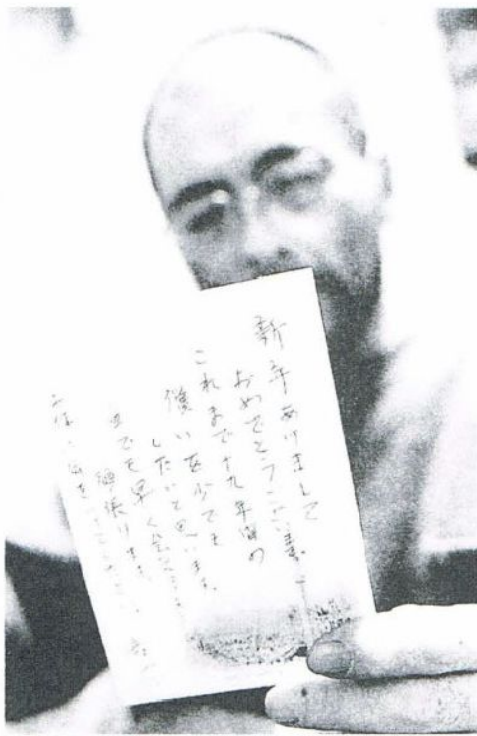
残した妻子 償う時間を

戸籍が抹消されていると知ったのは半年前。所属する派遣会社が変わり、住民票を求められたのがきっかけだった。役所で住民票を申請する時、10年前に亡くなった父の相続手続きのために叔父が申請した。部屋で独り、静かに酒を飲むのがささやかな楽しみ。体が続く限り働いて、ひっそり死のうと決めていた。

私は藤岡市に向かった。元妻(55)と娘(26)は以前と別のアパートに2人で暮らし始めた。嘉一さんの消息と謝罪の言葉を伝えると、元妻は「今さら何を」と絶句した後、「元気がよくなったことぶやいた。当がなければ生活できなかった。」

11月22日。嘉一さんは元妻と娘のアパートに電話をかけ、「長い間、本当に申し訳ないことをしました。娘を今まで育ててくれてありがとうございます」と留守番電話に入れた。番号は昔と同じ。「待っていてくれたのかも」。胸が張り裂けそうになった。その2日後、初めて持った自分名義の携帯電話を2時間かけて操作し、娘にメールを送った。しばらくして「お仕事頑張ってください」と返信があった。「これから仕事か」「声が聞きたくて」。12月15日、空白を埋めるように連日電話やメールを送り続けた。

「ドキュメント」は、家族や地域のつながりが薄れていく今の時代を生きる人々と記者が共に歩き人間の絆を考えるシリーズです。各回で取り上げる人々、今後も継続的に取材し、続随時掲載していきます。



年賀状を書き終え嘉一さんは「一歩ずつ前に進んでいこう」と言った。神奈川県大和市で、尾籠章裕撮影

「死」宣言

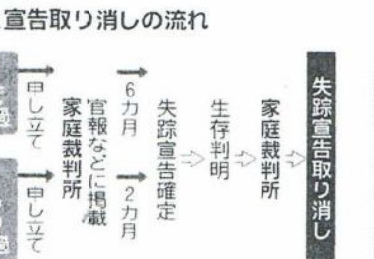
「死亡」宣言

「死」宣言

不明7年で「死亡」宣言

「死」宣言

「死」宣言



失踪 19年後の便り

失踪宣告と宣告取り消しの流れ

普通失踪 音信不通で7年以上経過

特別失踪 災害などで1年以上経過

失踪宣告確定 (6カ月、2カ月)

生存判明

家庭裁判所

失踪宣告取り消し

官報などに掲載

家庭裁判所

甲し立て

甲し立て

maruho

皮膚科学関連「医療用」医薬品のリーディングカンパニー。

www.maruho.co.jp

2011年

未明にかけを祈願するの寺社仏閣

例年